

ROOF HOUSE

住まいを広げていく

大きな屋根で覆われた庭と住まいの計画です。敷地は町工場や田畑の風景が混在する地域で、若い建主からは緑豊かな敷地全体で暮らすことが望まれました。そこで豊かな自然に加えて、周辺環境や地域の活動も取り込めるような半屋外のニワと一体となった住まいを考えました。建物を3つのボリュームに分け、その間に小さなニワ（土間）ができるように配置し全体を覆うような一枚の薄い屋根を架けました。屋根の下は路地のような隙間、小屋裏のような屋上、大きなトプライトを持つ入れ子状の室内など、半屋内とも半屋外ともいえるような空間を目指しました。大屋根によってできた半屋外のニワが内外の状況によってそれぞれ特徴的な場所となり、生活が室内で完結することなくニワへ、その外側へと広がり、この場所の自然や風土の中で日々の暮らしが営まれ、その時々で住まいの形も変わっていきます。そのような様々な局面で「住まい」という可能性が広がっていくことを期待しています。

建築主コメント

土地の西側半分は山林となっていて桜や栗などの樹木が生い茂っています。初めてこの土地を訪れてこの山林に入ったとき、とても素敵な森で神聖な気持ちになったことがこの土地を購入した決め手でした。私達はそんな緑を生かした家の設計を要望しました。家の中心には森側を向いた広い中庭があります。道路側は建物で遮断されて上は大きな大屋根に覆われているので、外のような中のような非常に気持ちの良い半屋外のプライベート空間となっています。住んでからの気づきとしては雨の日の居心地の良さです。雨は森の緑をより一層際立たせ、大屋根から落ちる複数の細い雨水の列とその雨音は、とても癒されます。斬新な外観のお家ですが、私達にとっては居心地が良く子育てもしやすく趣味にも没頭できる最高のお家です。

設計者（玉田脇本建築設計事務所）コメント

当初、相談を受けた際に「庭に住みたい」という言葉が非常に印象的でした。その後もお施主さんと「この土地に住まうとは」や「将来の生活を描く」ということを一緒に考えていくことで、様々なことが可能になる「庭に住む家」ができたと思います。竣工後に何度かお伺いする機会があり、その度に緑や花が育ち、徐々にお施主さんの生活が庭へ溢れ出し、とても豊かな生活を送られていました。今後も生活と共に家と庭が育っていってくれることを願っています。

施工者（有限会社岡村建業）コメント

まずお見積りのお話をいただいた時、想像できる住宅の範疇を超えていました。どんな建築になるのか？自分が見届けたいと強く思いました。弊社は木造中心の工務店なので、今回のRC造、鉄骨造、木造の混構造は大きなチャレンジでした。設計者の要望は逃げのない納まりを求めながらホームセンターで買い揃えられる材料で什器や家具をDIYして、住みながら施主が更新していく事を意図しています。建築現場の専門家である職人が、普段あまり扱わない材料でDIY的作業をすることは、逆に経験がなく難しい仕事でしたが、本当に根気強く取り組んでくれたと思います。

西側敷地の雑木林から建築を見る。3つの棟と半屋外のニワ、それらを覆う大屋根によって、敷地内外の自然環境や住まい手の生活、周辺地域の活動までを取り込む新しい住環境を目指した。



キッチン・リビング。トプライトと左右に視線が抜けていく。ニワと連続する開放的な空間。



中央の大きなニワを見る。各棟の大きな開口が面しており、ニワを介して住まい手の生活が広がる。



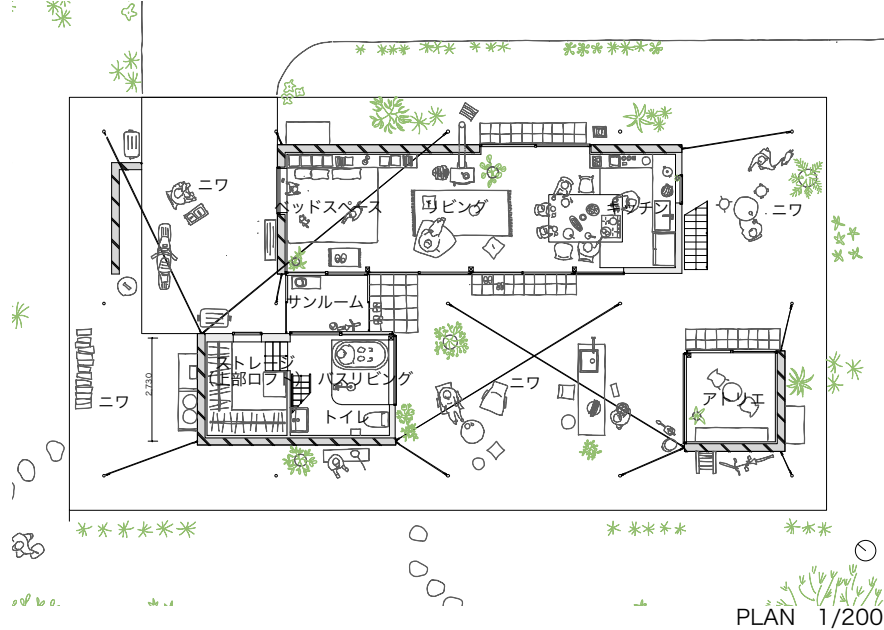
東側外観。3棟のボリュームで道路からの視線は遮り生活の場を包み込む。どこか懐かしくも新しい佇まい。



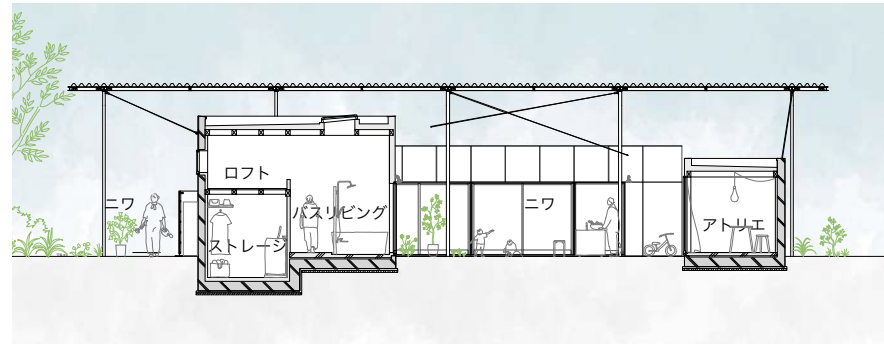
中央の大きなニワ。透明な屋根で覆われた明るい半屋外空間。各棟に囲まれながらも大きな開口や棟の隙間から周辺への視線が抜けていく。



入口側のニワ。敷地入口に向かって開いた軒先空間。



PLAN 1/200



SECTION 1/200



リビング。内壁の仕上げを外壁材として使われる波板とすることで室内にも屋外の雰囲気を引き込む。



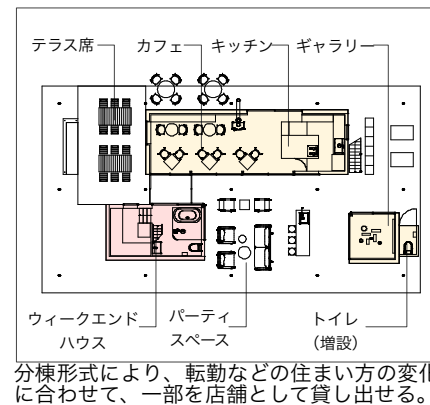
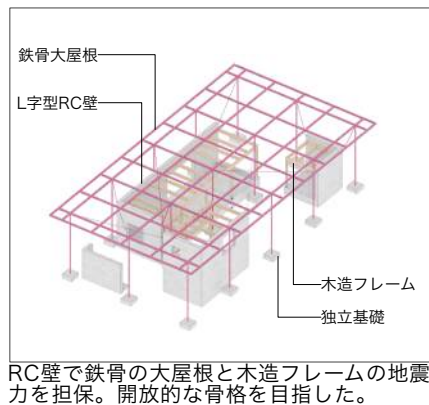
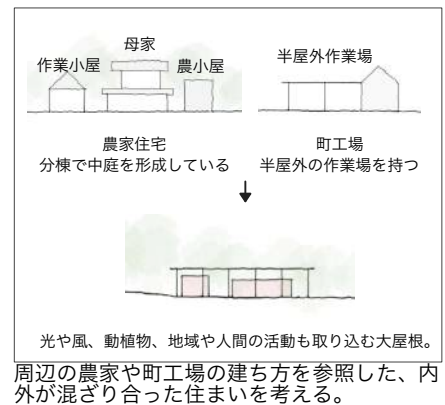
キッチン。トップライトから光が差し込む。



バスリビングからサンルーム越しにベッドスペースを見る。サンルームは光溢れる路地のような場所。



バスリビング。開口から大きな桜の木が見える。



設備部材を組み合わせた照明。これから増えていく建主の製作物との調和を意図した。

建主の製作による農業パイプを利用した収納棚。建築が常に更新されていく。

敷地は町工場と農地、住宅が混在したエリアで、小高い丘の麓に位置する。

周辺の農家や町工場の建ち方を参照した、内外が混ざり合った住まいを考える。

周りに「庭」が生まれるように敷地中央に建築を配置。大屋根下の「ニワ」と連続する。

RC壁で鉄骨の大屋根と木造フレームの地震力を担保。開放的な骨格を目指した。

分棟形式により、転勤などの住まい方の変化に合わせて、一部を店舗として貸し出せる。